

**新型コロナウイルス感染症に対する  
東京都医師会・東京都多職種連携連絡会の取り組みについて**  
—新型コロナウイルス感染症に係る緊急調査結果を中心に—

公益社団法人 東京都医師会  
東京都多職種連携連絡会

# 令和元年度東京都多職種連携連絡会 構成団体

公益社団法人 東京都医師会

東京都 福祉保健局医療政策部

一般社団法人 東京都病院協会

公益社団法人 東京都歯科医師会

公益社団法人 東京都薬剤師会

一般社団法人 東京都訪問看護ステーション協会

一般社団法人 東京都作業療法士会

公益社団法人 東京都栄養士会

公益社団法人 東京都介護福祉士会

一般社団法人 東京都医療社会事業協会

一般社団法人 東京都老人保健施設協会

公益社団法人 東京都歯科衛生士会

公益社団法人 東京都看護協会

公益社団法人 東京都理学療法士協会

一般社団法人 東京都言語聴覚士会

特定非営利活動法人 東京都介護支援専門員研究協議会

公益社団法人 東京社会福祉士会

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

(東京都高齢者福祉施設協議会)

令和元年度東京都多職種連携連絡会

**新型コロナウイルス感染症に係る緊急調査  
(令和2年3月9日発出)**

# 本人・家族の心理状況、行動変容

- 報道機関、SNS等外部から届く膨大な情報の中で、どれが正確な情報であるか判断がつかないため、心理的に不安定になっている。
- 普段なら風邪症状として理解している咳・発熱等の体調不良への過度の心配、不安、恐怖。
- 発熱時どのような手順で対応していくか、従来できていたことが、特別なことと捉え、不安が増強し、動けなくなっている。
- 過度の感染恐怖から、普段通っているデイケア、デイサービス等の「通所系」サービスを休んでしまい、食事も入浴も満足にできず、日常生活がなりたたなくなっている。
- 「通所系」サービスを休んでしまうため、同居家族は出勤もできず、要介護高齢者につきっきりとなる。登校停止中の子供の面倒を見つつ、親の介護も、とダブルケアになっている。
- そもそも、高齢者独居や老老世帯は数多くあり、現状、微妙なバランスで地域生活が維持されている。それが新型コロナウイルス感染症の感染拡大により微妙に崩れてきている。
- 感染恐怖から必要な「訪問」サービスを断ったり、担当者会議等への出席を拒否する。状況把握が困難になりつつある。

**対応策**→ 正確な情報提供、いつでもだれもが相談できる窓口の設置、心理的ケアの提供（医療職、非医療職は問わず専門職が対応）

# 「通所系」サービス事業者の不安

- 明確な理由なく、突然通所を断る利用者が増えてきている。
- 利用人数の急激な減少。
- 「通所系」サービスを複数個所利用している利用者があるため、自事業所だけでの感染防止策では賄いきれない不安がある。
- 「通所系」サービスでは、食事（栄養管理、食形態の工夫）提供や、入浴・清拭等による衛生管理、心身機能の維持・向上のためのプログラムを提供している。休止した場合の安心安全な日常生活が維持できなくなる。
- 就労、家事業務、レスパイト等家族側の利用目的にも即影響がでる。
- 休止・閉鎖時に、代替をどうするか、利用者はどうなるのか。特に、ひとりケアマネ事業所の利用者、独居・老老介護・認知症で徘徊がある利用者が心配。

➡患者・利用者の行先の不安が主。休業による経営上損失も大。

# 蔓延による「訪問系」サービスへの波及・影響

- 健康な人は外出自粛。軽症の人は自宅（在宅）療養。
- 「通所系」サービス自粛（利用者側・事業者側共）サービス提供量の縮小・休止  
→「訪問系」サービスで代替。需要が増え、代替サービスでも需要を満たせていない。
- 同居家族等は外部へ出入りする機会が多く感染リスクが高くなる。
- 「施設系」サービスでは、感染症対策等が確立されているが、「訪問系」サービスでは中小の事業所も多く、医療・介護の有資格者が少ない。
- 「訪問」すべきかしないべきか判断基準が不明確。感染疑いの方や検査中の方に対して、どう対応すべきか、どこまで予防策を取るべきか現場は混乱。
- 在宅で、ポート管理等を行っている本人・家族の衛生用品の備蓄がいつまでもつか心配。
- 「訪問系」は慢性的な人材不足があり、それがさらに進行、深刻化。
- 「訪問系」では、感染症者が出た場合、事業休止の基準、指針・対応策が不明確。

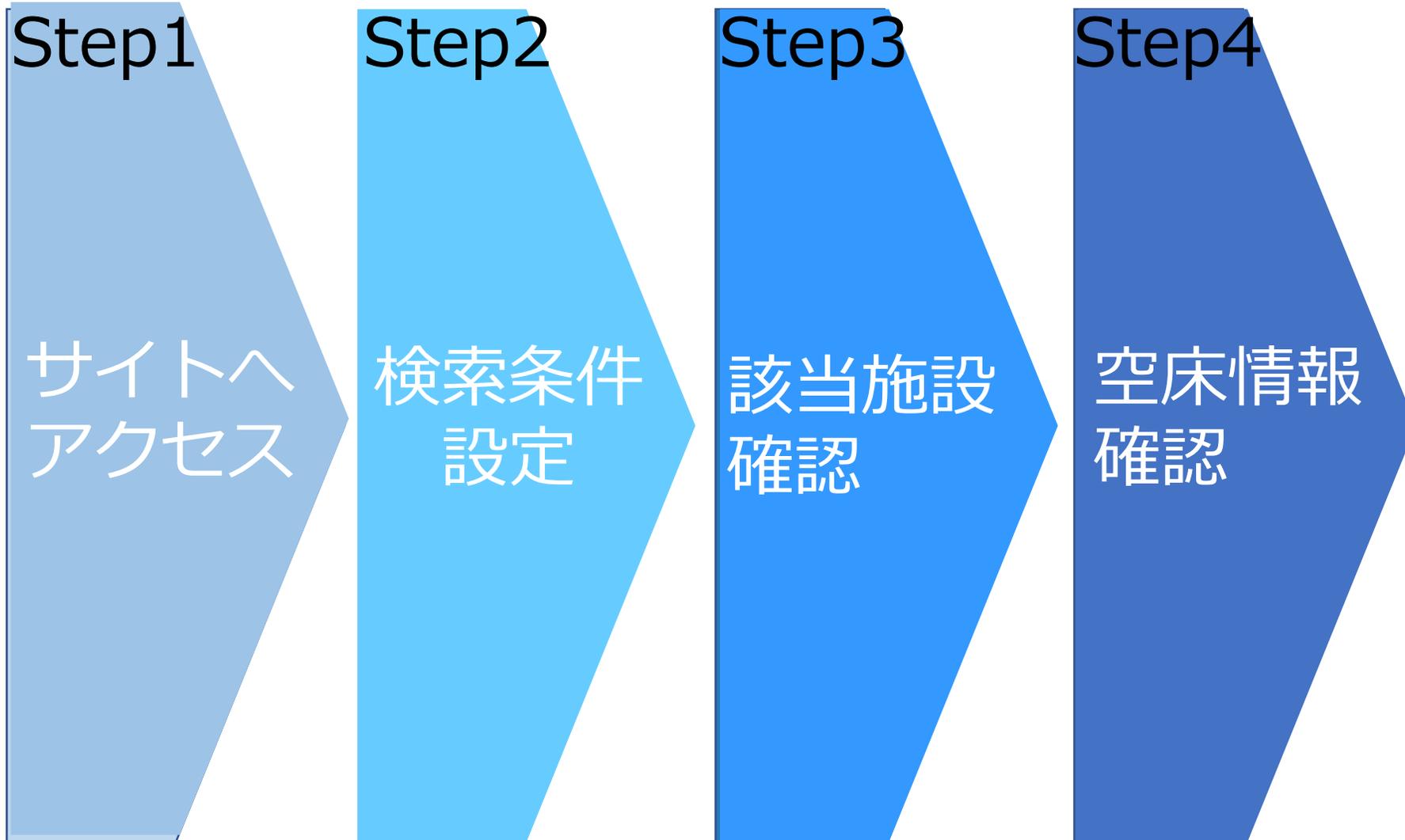
**対応策**→在宅だから訪問系サービスといった図式ではなく、老健施設や特養のショートステイ等の積極的な活用を検討。

東京都補助金事業

# 老健ショートステイ空床情報検索システム

東京都多職種連携連絡会加盟  
(一社) 東京都老人保健施設協会

# 空床情報検索システムの使い方



# 登録施設の2週間分の空床情報が表示される



クリック

「空き」の場合は「○」が表示

URL <https://www.roken-tokyo.or.jp/>



空き情報 - 2週間 短期入所療養

本日【2020/2/21 (金)】より、2週間の空床情報

○・・・空きあり x・・・空きなし

		2/21 (金)	2/22 (土)	2/23 (日)	2/24 (月)	2/25 (火)	2/26 (水)	2/27 (木)
個室		○	○	○	○	○	○	○
多床室	男性	x	x	x	x	x	x	x
	女性	○	○	○	○	○	○	○
2床室	男性	x	x	x	x	x	x	x
	女性	○	○	○	○	○	○	○

## 医療的管理項目より検索が可能

- |                                     |                                    |                                   |
|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> インスリン注射    | <input type="checkbox"/> 認知症（周辺症状） | <input type="checkbox"/> バイパップ    |
| <input type="checkbox"/> 経管栄養（胃ろう）  | <input type="checkbox"/> 腸ろう       | <input type="checkbox"/> (BIPAP)  |
| <input type="checkbox"/> 経管栄養（経鼻）   | <input type="checkbox"/> ペースメーカー   | <input type="checkbox"/> シーパップ    |
| <input type="checkbox"/> 膀胱留置カテーテル  | <input type="checkbox"/> 膀胱瘻       | <input type="checkbox"/> (CPAP)   |
| <input type="checkbox"/> 人工肛門       | <input type="checkbox"/> 腎瘻        | <input type="checkbox"/> 輸血       |
| <input type="checkbox"/> 痰吸引        | <input type="checkbox"/> 導尿        | <input type="checkbox"/> ウイルス性肝炎  |
| <input type="checkbox"/> 気管切開       | <input type="checkbox"/> 末梢点滴      | <input type="checkbox"/> (B型・C型)  |
| <input type="checkbox"/> 褥瘡処置       | <input type="checkbox"/> 人工呼吸器     | <input type="checkbox"/> HIV      |
| <input type="checkbox"/> 感染症（MRSA等） | <input type="checkbox"/> 人工透析      | <input type="checkbox"/> 疥癬       |
| <input type="checkbox"/> 在宅酸素療法     | <input type="checkbox"/> 人工透析      | <input type="checkbox"/> 負荷管理     |
| <input type="checkbox"/> 抗がん剤治療     | <input type="checkbox"/> (腹膜環流法)   | <input type="checkbox"/> 麻薬以外の    |
| <input type="checkbox"/> 麻薬管理       | <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養    | <input type="checkbox"/> 疼痛コントロール |
| <input type="checkbox"/> 終末期ケア      | <input type="checkbox"/> (IVH、TPN) |                                   |

# 都内老健施設空床情報

2020年3月12日現在

N	市区町村	施設	空床 (入所)	空床 (ショート)	対策	ケアマネから声
1	練馬区	O施設	6	3	受入れ可能	特になし
2	足立区	A施設	0	2	受入れ可能	特になし
3	豊島区	A施設	11	1	受入れ可能	特になし
4	江戸川区	M施設	12	3	受入れ可能	特になし
5	世田谷区	B施設	0	0	受入れ可能	特になし
6	世田谷区	U施設	10	6	受入れ可能	近隣の施設で断られた 利用者を受け入れた
7	港区	R施設	0	0	在宅での感染を心配した家族からの 要請により退所させられない	特になし
8	三鷹市	T施設	0	0	在宅での感染を心配した家族からの 要請により退所させられない	特になし
9	西東京市	H施設	0	3	受入れ可能	特になし
10	東村山市	BN施設	2	2	受入れ可能	特になし
11	東久留米市	K施設	2	0	2泊程度のショートは受け入れ停止	特になし
12	稲城市	I施設	15	10	受入れ可能	特になし
13	多摩市	MA施設	2	4	受入れ可能	特になし
14	東村山市	TS施設	4	0	受入れ可能	特になし
15	東大和市	V施設	0	0	受入れ可能	特になし
16	西多摩郡	F施設	0	3	受入れ可能	近隣の施設で断られた 利用者を受け入れた
17	八王子市	G施設	0	3	受入れ可能	特になし
合計			64	40		

# 通所系・訪問系サービスを断ったり、事業休止となった際の 本人・家族への影響

- 利用目的が心身機能保持・社会性保持であるため、中断により、要介護者はもとより、介護予防者でも、閉じこもり、フレイル進行、廃用症候群の進行、ADLの低下・不活化、BPSD出現、認知機能の低下を生む。
- 単身者や家族介護が得られないケースは、即、食事提供、入浴等の清潔保持等が問題となり、安心安全な日常生活が破綻する。

**対応策**→自宅でできること（プログラム）の情報提供・働きかけ

PT：不活動に対する自宅でできる運動の動画を作成。自宅での過ごし方の指導。

OT：自宅でできる体操・アクティビティ。地域福祉プラットフォームと協力しての作業・創作・家事活動の提案等の情報提供

ST：電話連絡をし電話を媒介にして訓練指導

# 医療・衛生材料等の不足に関して

- ほとんどの多職種連携連絡会構成団体においてすでに不足、備蓄が比較的潤沢なところでも、もって後1か月。
- 不足している備品は、マスク・消毒用アルコール・ディスポグロブの順。
- 供給優先順位は、病院＞その他医療機関＞訪問看護ステーション＞その他 の図式になりつつあり、この場合「その他」グループは発注もできない。止む無くネットで高額のものを購入する事例も出ている。卸センターの在庫もない。
- オルベスコ（吸入薬）は出荷制限がかかり、取引実績のある薬局でも数量制限がかかり新規の薬局には全く入ってこない。
- 代替品・手段を使用をせざるを得ないケースの中には、エビデンスのないものや過程で問題が生じる可能性があり、結果として感染症拡散につながる恐れがある。
  - 例：アルコール消毒液の代替品としてクロール水を作成
  - 例：マスクは一週間に一枚のみで不織布ガーゼを覆ってガーゼを取り換えて使用
  - 例：マスクを使用後個人別に比較的綺麗なものを保管し、マスクが足りなくなった場合に、滅菌消毒して再使用する。

**対応策**→医療・介護・ケアに分け隔てなく早急な供給を。

## その他の課題・問題

- キャンセル・休止・縮小による経済的影響、事業運営の先行き不安。
- 閉鎖せざるを得ない状況になった時の経済的支援。
- 高齢者で入居施設の場合はPCR検査受診基準を下げてほしい。
- 感染者が確認された介護施設、介護サービス事業者への風評被害、転院対応・紹介患者の受診の難しさ、情報漏洩対策。
- 離島への対応。
- 精神障害者や重度心身障害者への対応。

# 行政への要望

- 現状、保険者からの運用通知により、通常業務の実施に大きな混乱は起きていない。しかし、緊急措置が長期に及ぶ場合は、今後発生が予想される事象に対応できない。迅速に必要な通知を発出して欲しい。利用者・家族・事業者も不安。
- 通知とは別に、地域性・実情にあった独自の取り組みの推進。  
例：A市、B市では、ケアマネジャー団体が独自実態調査を実施。
- 「今利用できる」地域の医療資源の現状を把握し、速やかに情報発信。
- いわゆる介護ハイリスク者である独居・老老介護家庭・認知症BPSD（徘徊）や急にサービスを休止した者等について調査し情報提供。
- 正確迅速な通知・回答の発信。  
例：ケアマネジャーが行うモニタリング等の制限が生活状況の把握に影響し、QOL低下を招かないか危惧。
- 国と都、自治体との連絡・調整を円滑・密にして欲しい。特に入院対応について行政がもっと支援、介入して欲しい。
- 制限等への明確な指示。いつまで、どの程度。「望ましい」等曖昧な指示は困る。
- 保健所との連携を円滑にするための支援。
- 正確な情報提供が欲しい。地域別の詳しい感染者の発生状況等の情報など。

# おわりに

- 未知の経験をする中で、情報社会の弊害として一般市民は氾濫する情報に踊らされ、過度な不安を生んでいる。
- 正確かつ必要最小限の身近な情報をしっかり届ける必要がある。
- 今回、東京都医師会では、東京都から事業委託を受けている「多職種連携連絡会」の機能を活用し、構成団体から現場の実態、課題、今後予想される問題、対応策等について短期間で収集することができた。時間的問題から各団体の正式な見解となっていないものもあるが、「医療面」に視点が向かいがちな中で、地域、介護、福祉といった「生活者の視点」を重視した今回の多職種専門職からの現場の声は、新型コロナウイルス感染症対策の一助となるものと考えている。